

平成27年度第2回 横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会会議録

- 1 日 時 平成 27年10月26日（月） 15時00分 ～ 16時00分
 2 場 所 横浜能楽堂
 3 出席者 横山太郎委員長、芦澤美智子委員、足立文委員、猪又宏治委員
 4 欠席者 なし
 5 傍聴者 なし
 6 議事内容

議題	第2期指定管理者 平成26年度業務評価について
委員意見等	<p>1 開会 (1) 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 (2) 本委員会の公開・非公開について <審議結果> 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会運営要綱 第9条に基づき、公開とした。</p> <p>2 評価の審議 <評価にあたっての確認事項等> (以下「・」＝委員、「→」＝指定管理者) ・第1回目の審議において、評価の際に事業収支のバランスや文化事業等の業界における健全性等の客観的な指標がほしいと伝えたが、説明や資料等の用意はあるか。 →全国の能楽堂において、事業を自ら企画しているところは極めて少数であるため、指標として比較することが難しい。そのため、事業内容を理解していただくための、きめ細やかな努力を行うしかないと考えている。 事業を行う際は、様々なターゲットを設定し、来場者が毎回異なるように事業を行うことが一つの公共性と考えており、事業の内容・ターゲット等によってチケット単価を検討し、指定管理料での負担と受益者負担とのバランスを考えている。 また、収支全体については、補助金等が厳しい状況であるが、情勢を見て色々なところから補助金が取れるよう努力をしている。 ・平成25年度の業務評価から、施設のWEBページにおいて施設利用率を高め市民が利用しやすい方策を行うと良いとの提案をしたが、業務計画において触れられていない。 →今後、能楽堂の利用範囲において利用の多様性を示すとの提案を取り入れ、改善を図りたい。</p> <p><審議結果> (1) 事業目標について 各委員の評価は、全員Aであり、委員会としての外部評価は、Aとした。 委員より、券売率は総じて業務計画を上回っており、「琉球舞踊 古典女七踊」が、文化庁芸術祭 関東参加公演の部 舞踊部門の大賞を受賞した点について、高く評価された。 一方で、長期的な視点に立ったすそ野を広げる事業が重要であることや、地域との連携においては、現在定着している事業だけでなく、さらに一步踏み込んだ事業連携の展開、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団の様々な取組みとの連携等を期待するとの意見があげられた。 また、同様のテーマを継続して実施する場合も、様々な視点で企画を検討し、より良い内容にすることや、業務計画において、現在の課題認識をより詳細に記載すべきとの意見が出された。 事業収支の指標に関しては、横浜能楽堂が古典芸能の財政運営において理想的な形であることについて学会などの対外的な評価を確立し、あるべき指標となる考え方を示すべきとの意見があった。</p>

(2) 運営目標について

各委員の評価は、全員Bであり、委員会としての外部評価は、Bとした。

委員より、本施設は室数の多さから稼働率の向上は難しい面があるが、目標を下回る部屋については、現状以上に努力が必要であるとの意見が出た。具体的には、市民活動の支援、WEBサイトの工夫等による施設の利用促進等において、積極性に欠ける部分があるため、稼働率の向上に向けて、毎年取組の見直しをすることが重要との指摘があった。

また、バリアフリー研修については、良い取組であるため、実際の施設運営への反映や来場者からの評価などの事例を強みとすると良いとの意見があげられた。

(3) 維持管理目標について

各委員の評価は、全員Bであり、委員会としての外部評価は、Bとした。

経年により施設の劣化が増えてきていると見受けられるが、市と指定管理者とで情報共有及び連携をし、堅実に運営を進めるべきとの意見が出た。

(4) 収支について

各委員の評価は、全員Bであり、委員会としての外部評価は、Bとした。

委員より、事業運営の継続性を確立するためには、公共性の有無を問わず、事業の収支が均衡するよう努め続けるべきこと、また、KPI（重要業績評価指数）等を用い、ミッションに対する目標数値の水準についてより深い検討をすべき、との意見が出された。

定性的評価よりも定量的評価に重きをおいて評価される傾向がある今日においては、高い券売率を前提として事業収支等の評価をされるため、事業効果等の定量的表現や、具体的根拠を持った付加価値の説明について、検討が必要との意見があった。

(5) PDCA サイクルについて

各委員の評価は、全員Bであり、委員会としての外部評価は、Bとした。

(6) 留意事項について

各委員の評価は、全員Bであり、委員会としての外部評価は、Bとした。

基本方針について、審議の結果、委員会としての外部評価はAとした。

総括として、平成 25 年度の業務評価における指摘が平成 26 年度の業務計画に反映されていない点が残念であるとの指摘がなされた。

また、稼働率の課題や業務目標水準については、現状以上に行政と意思疎通を図り、事業収支等の適切さについて、行政及び市民へ伝わるよう、客観的な説明が必要との課題が示された。

一方、高い水準の券売率・入場率は約 20 年間継続しており、芸術性が高く、公の賞を受賞する事業が実施されている点が高く評価された。